

社会福祉法人 桐生市社会福祉協議会

# 桐生みやま園 だより

<令和3年 8月17日号(地域広報版) >



「桐生みやま園」の“みやま”とは一。

現在、桐生みやま園がある所在地の住所は、以前「川内町五丁目 <sup>あざ</sup> <sup>みやま</sup> 字 深山…」と表記されていたところ。その字（あざ）の地名を取って付けられた名称とされています。ただ、そこには上毛三山の意味合いも込められているという説もあり、これについても頷けるところです。



<↑桐生みやま園施設が完成する前の周辺地図>



左のシンボルマークは、「桐生みやま園」として施設が開設する際に定められたものです。桐生みやま園としては、このシンボルマークを定めるにあたり、広く桐生市民にデザインを募り、障害者支援への理解をいっそう深めてもらおうとしたことが当時の記録に残っています。

応募されてきた作品の中から、最終的にこの作品が選ばれましたが、作者の思いは「心身障害者が桐生みやま園の生活を通して人間関係を円滑にし協調

して社会生活を営めるよう意図した。」とのことでした。開設当初からは、本園の位置づけが変わってきておりますが（以前は「授産施設」→現在は「総合的に介護・援助・支援などサービスを提供する施設」）、根底にある思いや考え方は当然重なりますので、シンボルマークを作成した頃の理念を大切にしていきたいと考えます。

## 桐生市社会福祉協議会「桐生みやま園」は開設から40年目を迎えました。

昭和56年開設の桐生みやま園は、今年で40年の節目を迎えます。多くの利用者や地域の皆様方とともに歩んできた歴史を振り返り、さらに力を合わせて進んでまいります。この足跡を振り返り、本来、40年の節目を地域の皆様とともに喜びたいところですが、残念ながらコロナ禍で行事は控えなければならない状況です。この先々、感染症対策が進み、安心できる状況にまで収まった際には、節目の行事として改めて実施可能な内容で計画したいと考えています。

当面、記念行事は実施できないことから、それに代わり桐生みやま園のうちわを作成しました。なお、このうちわは桐生みやま園をはじめ、川内公民館や川内町内にある金融機関や諸施設等に置かせていただきますので、遠慮なくお持ちの上、各ご家庭で活用いただければ幸いです。

<開設40周年の記念うちわ：「力士図柄」面と「お祭り図柄」面>



## 大勢の皆様方のご寄付、誠に有難うございます！

- ☆6/3に公益社団法人桐生法人会女性部会様からたくさんのタオルをご寄付いただきました。
- ☆7/30に梅田婦人会様からたくさんのタオルや衛生用品をご寄付いただきました。
- ☆6～7月にかけて、何名かの個人様より様々な物品のご寄付をいただきました。

本園では様々な時期に市内の団体様や個人様よりたくさんのご寄付をいただいております。障害を抱えている利用者の方々は、タオルやその他の衣料品、衛生用品をたくさん使用するため本当に助かっております。温かなご支援、誠に有難うございます。



<6/3公益社団法人桐生法人会女性部会様>



<7/30梅田婦人会様>